

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラム開発に関する研究  
研究分担者 長谷川 裕紀  
武庫川女子大学短期大学部 食生活学科 講師

研究要旨

がん患者の栄養学的特徴や臨床栄養の基本的知識を習得するための「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行った。講義では「がんと栄養」に関する最新の知識を獲得することができ、多職種参加型の症例検討グループワークでは、多様な視点での事例検討を行うことで実践的な知識を身に付けることができる。本講座をより体系的に展開していくことで、がん患者の栄養サポートをチームで担う在宅医療人材の育成が可能となる。

A. 研究目的

在宅がん患者に対して総合的な栄養サポートを実施するためには、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士などが連携して取り組む必要がある。在宅医療が推進される中で、医療と介護の連携に代表される多職種協働の視点が重要であるが、患者の生活を包括的に支えていく在宅医療人材は不足しているのが現状である。

このような背景から、本研究では「がんと栄養」を理解した在宅医療を担う人材を育成するために、「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの企画・開発を行う。平成 28 年度は昨年度同様に 2 日間の日程で講義と多職種参加型のグループワークを実施し、さらなる講座内容の充実化を図る。

B. 研究方法

1) 「臨床栄養スタートアップ講座」の企画・開発

昨年度同様に 2 日間の日程で、1 日目は講義 3 題と症例グループワークオリエンテ

ーション、2 日目は講義 4 題と症例グループワークという構成とした。今年度は、がん治療と栄養に関する講義に加えて、口腔機能管理、家族・遺族の心理などのテーマを加えて内容の充実化を図った。

2) グループワークで検討する症例

低栄養の在宅高齢者を症例 1,2 ( 1 ) とし、検討課題を以下の 2 点とした。

症例の栄養学的な問題点をあげる

症例の短期的および中期的な目標を設定し、それに向けて必要な対策をあげる

参加者は 1 日目の症例グループワークオリエンテーションにて、課題内容の説明を受け、上記 2 点について自身の考えをまとめてから、2 日目の講座を受講する。

3) アンケート調査

実施した教育プログラムが有効であるかどうかを把握するために、講座を受講した参加者にアンケート調査を行った。

アンケート調査項目 1 日目：スタートア

ップ講座に参加した理由、講義内容で興味を持ったあるいは現場で役に立つと感じた内容、ご意見（自由記述）など。

アンケート調査項目 2 日目：グループワークの満足度、グループワークは今後の臨床でどの程度役に立つか、ご意見・本講座への要望（自由記述）など

（倫理面への配慮）

「個人情報保護法」を遵守した。アンケートは無記名の用紙で実施し匿名化されており倫理面での問題はない。

## C. 研究結果

1) 「臨床栄養スタートアップ講座」を下記の内容で開催した。

日程：1 日目 平成 28 年 10 月 9 日（日）

2 日目 平成 28 年 10 月 22 日（土）

場所：1 日目 大阪国際会議場

2 日目 武庫川女子大学

プログラム 1 日目：

講義 がん治療における栄養の持つ意義

講義 がん治療における口腔機能管理の意義  
口腔ケアの重要性について

講義 がん患者と家族・遺族の心理

症例紹介とグループワークオリエンテーション

プログラム 2 日目：

講義 在宅高齢者の栄養学的特徴

講義 放射線治療を受けるがん患者の栄養障害

講義 在宅がん患者の栄養管理の実際

講演 がん対策

症例の多職種小グループワークと発表会

## 2) 参加者

1 日目の参加者は医師、管理栄養士、看護師、薬剤師など 86 名、2 日目は 56 名であった。

## 3) 症例検討グループワークの実施

参加者を 9 グループに分け、医師、薬剤師、看護師、言語聴覚士、管理栄養士の参加者が多職種になるようグループを割り当てた。グループにはノートパソコンを 1 台用意し、グループで検討した症例課題の内容をパワーポイント数枚にまとめる。最後に全体で発表会を行い、質疑応答をすることで各グループにおいて検討した内容を参加者全員で共有できるようにした。課題に対する各グループの検討内容は大まかに以下の通りであった。

## 症例 1

栄養学的な課題

- ・筋肉量、骨格筋量の減少
- ・体脂肪量、体脂肪率の増加
- ・治療前の体重増加

短期的目標とその対策

## 短期的目標

- ・バランスの良い食事の実践
- ・食事摂取増量
- ・化学療法の完遂
- ・運動量の増加

## 対策

- ・栄養指導、食事内容の聴き取り
- ・あじさい食への変更、食事形態の変更
- ・リハビリの遂行

中期的目標とその対策

## 中期的目標

- ・脂質異常症の改善
- ・体組成の改善

- ・筋肉量の増加、サルコペニアの予防
- ・ADLの維持

#### 対策

- ・定期的な栄養指導
- ・継続的にできる軽い運動
- ・外来リハビリでの筋力維持向上

#### 症例2

##### 栄養学的な課題

- ・貧血
- ・体重減少
- ・骨格筋量低下

##### 短期的目標とその対策

#### 短期的目標

- ・貧血改善
- ・エネルギー量、たんぱく量の増加

#### 対策

- ・輸血、鉄剤投与
- ・栄養補助食品の推奨

##### 中期的目標とその対策

#### 中期的目標

- ・腎機能のモニタリング
- ・筋力低下予防、活動量維持
- ・貧血予防

#### 対策

- ・補助栄養食品の検討
- ・リハビリ介入
- ・口腔ケアと食事形態の検討

#### 4) アンケート調査結果

回収できたアンケート数は1日目86(回収率100%)、2日目52(回収率93%)であり、高い回収率となった。1日目の回答より、スタートアップ講座に参加した理由(抜粋)については、「がん患者の栄養管理は重要と考えるから(医師)」、「がん患者の

QOL向上のために知識を得るため(看護師)」、「がん薬物療法に従事しているので、担当がん患者さんの栄養管理について知識を得たいと思ったので(薬剤師)」、「緩和ケアチームの一員なので勉強できればと参加した。決め手は「実践的知識を学べるユニークな講座」(管理栄養士)」、という回答があった。

また2日目の回答より、グループワークの満足度については「大変満足(27.5%)」、「満足(60.0%)」、「どちらともいえない(12.5%)」、「不満、大変不満(0%)」であった。グループワークは今後の臨床でどの程度役に立つかについては「とても役に立つ(38.9%)」、「役に立つ(50.0%)」、「どちらともいえない(11.1%)」、「あまり役に立たない、役に立たない(0%)」であった。グループワークの感想(抜粋)は「多職種での議論は新しい意見が聞けるため参考になった(医師)」、「多職種の方と普段と違う視点で事例検討が出来て良かった(看護師)」、「多職種で話し合えて良かった。普段医師や看護師とゆっくり話す機会が少ないので貴重な機会となった(管理栄養士)」、という声があった。

#### D. 考察

昨年実施したスタートアップ講座におけるアンケート結果より、「がんと栄養」に関する知識は医療従事者であっても十分な知識は持ち合わせていないことがわかっている。今年度も1日目は86名もの参加者があり、本講座への参加理由の大半が「がんと栄養に関する知識を深めたい」というものであったことから、がん患者の栄養管理が現場でますます重要なものになっている

ことを再認識することができる。

また本講座の特徴は、講義とグループワークを組み合わせているところにあり、講義では「がんと栄養」に関する最新の知識を学ぶことができ、さらに多職種参加型の小グループワークでは事例検討を行うことで、実践的な知識を身に付けることができる。特に、事例検討グループワークは1日目のオリエンテーションで課題の説明を行い、参加者自身が考えをまとめてから臨むことで、より活発な意見交換につながり、多様な視点の獲得ができると考えられる。在宅医療の現場は、多職種が協働することで患者への包括的なサポートが可能になることから、多職種参加型のグループワークは、現場で役に立つ議論の形式がとれており、有効であると考えられる。

本講座を受講した感想・ご意見として「「がんと栄養」のテーマであるが、栄養の部分が少ない」、「スタートアップの次はありますか。がんと栄養の知識について深めていきたい」という意見があり、「がんと栄養」に関するテーマを継続し、体系的な教育プログラムとして展開していく必要がある。

#### E . 結論

本講座を平成 26 年度から 3 力年に渡って内容の充実化を図りながら実施した。講義とグループワークで構成されたプログラムは実践的な知識の獲得に有効であり、多職種連携の重要性も認識することができる。本講座によって栄養サポートをチームで担う医療・福祉系人材を育成することが可能になる。

#### G . 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

H . 知的財産権の出願・登録状況  
( 予定を含む。)

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

( 1 ) 症例課題の内容

添付資料

資料 1

臨床栄養スタートアップ講座 チラシ

資料 2

症例課題の内容

資料 3

グループワークのまとめ資料